■基調講演者プロフィール

吉見俊哉（よしみ　しゅんや）

社会学者。1957 年、東京生まれ。國學院大学観光まちづくり学部教授、東京大学名誉教授。
上演論的アプローチから都市論、メディア論を展開、日本のカルチュラル・スタディーズで中心的な役割を果たしてきた。長く東京大学で教え、大学院情報学環長、大学総合研究センター長、教育企画室長、副学長などを歴任。また、東京大学新聞社理事長、東京大学出版会理事長、日本マス・コミュニケーション学会会長、デジタルアーカイブ学会長、東京文化資源会議会長なども歴任する。
主な著書に、『都市のドラマトゥルギー』（河出文庫）、『博覧会の政治学』（講談社学術文庫）、『万博と戦後日本』（講談社学術文庫）、『親米と反米』（岩波新書）、『ポスト戦後社会』（岩波新書）、『大学とは何か』（岩波新書）、『夢の原子力』（ちくま新書）、『アメリカの越え方』（弘文堂）、『「文系学部廃止」の衝撃』（集英社新書）、『視覚都市の地政学』（岩波書店）、『トランプのアメリカに住む』（岩波新書）、『平成時代』（岩波新書）、『五輪と戦後』（河出書房新社）、『知的創造の条件』（筑摩書房）、『大学という理念』（東京大学出版会）、『東京裏返し』（集英社新書）『大学は何処へ　未来への設計』（岩波新書）、『東京復興ならず』（中公新書）、『空爆論』（岩波書店）、『敗者としての東京』（筑摩書房）、『さらば東大』（集英社新書）、『東京裏返し　都心・再開発編』（集英社新書）、『アメリカ・イン・ジャパン』（岩波新書）、『このとき、夜のはずれで、サイレンが鳴った』（共著、岩波書店）等、多数。